

妙義町の就学前のむし歯予防対策

妙義町役場 保健福祉課

黨 多恵 須藤ひろ子 輪湖キミ子 矢島昭房

社団法人富岡甘楽歯科医師会

黒澤良介 茂木忠泰 萩原吉則

1. はじめに

妙義町は県の西南部に位置し、西部には上毛三山の一つ、奇勝・妙義山がそびえ、北部は妙義山麓からの丘陵地帯が続き、南部は大桁山とそれに連なる山々が東に向かってのび、丘陵の間には東西に細長い盆地が広がっている。その中央を流れる高田川流域は肥沃な水田地帯となっている。町の人口は5,034人〔平成14年9月末現在〕で、高齢化率は25.9%、平成13年度の出生数は21人である。

妙義町では、以前は子供たちのむし歯が多く、効果的なむし歯予防対策の実施が大きな課題だった。そこで町では、昭和62年度から、むし歯予防講話、歯科健診、歯みがき指導、食事指導を中心とした「むし歯予防教室」を開始した。しかし、平成2年度の3歳児健診におけるd m f者率は90.2%で、d m f歯数は5.45本で、むし歯の罹患状況は改善しなかった。

そこで町では、平成4年度からむし歯予防教室に、4か月毎のリコールとフッ素塗布〔フッ化物歯面塗布〕を導入し、さらに家庭でのフッ化物利用を指導した。また、幼稚園、保育園の4、5歳児を対象にして、平成5年度からフッ素洗口〔フッ化物洗口〕を開始した。その結果、就学前の子供たちのむし歯罹患状況が大幅に改善したので報告する。

2. 妙義町で実施されている就学前の歯科保健対策

町では、通常の乳児健診、幼児健診〔1歳半、2歳、3歳〕に加えて、次のような歯科保健対策を実施している。

(1) むし歯予防教室

対 象 1歳から4歳8か月の児

回 数 年6回開催。4か月ごとのリコールが基本。ハイリスク児に対しては、リコール間隔を2か月に短縮して対応。

従事者 歯科医師1名、歯科衛生士3～4名、保健師3名、看護師1名、事務職1名。

実施内容

- 受付、問診表の記入〔毎回〕
- 歯科健診、歯科医師による指導〔毎回〕 歯科医師による講話〔初回のみ〕
- 歯科衛生士による歯みがき指導、食生活指導〔個別〕 希望者にフッ素塗布を実施〔フロアゲルを綿球法で塗布〕
- 保健師による総合的な指導

以上の流れの中で、歯科医師、歯科衛生士、保健師が協力し、歯みがき指導、食生活指導、フッ化物利用の指導〔家庭でのフッ化物利用を含む〕などを総合的に行う。家庭でのフッ化物利用としては、フッ素イオンスプレー〔レノピーゴ〕、フッ化物洗口剤〔ミラノール〕、フッ化物配合歯磨剤の利用を、年齢等の状況に応じて指導している。

(2) フッ素洗口〔フッ化物洗口〕 平成5年度開始

対 象 幼稚園、保育園の4、5歳児

実施方法 費用は町で負担。ミラノールを使用し、週5回法で実施。洗口液 5mlを使用し、1分間洗口。

説 明 会 毎年、新入園児の保護者を対象に説明会を開催している。また、園児を対象に実技指導を実施している。

(3) 歯科衛生士による巡回歯科保健指導 平成6年度開始

対 象 幼稚園・保育園の園児と保護者

従 事 者 歯科衛生士2名、保健師1名

内 容 講話、寸劇、歯科保健指導。園児のむし歯予防だけでなく、保護者のむし歯、歯周病予防にも配慮している。

3. 調査方法と結果

むし歯予防教室の実施状況、3歳児健診の結果、むし歯予防教室の健診結果、幼稚園・保育園のフッ素洗口実施状況を調査した。結果の詳細は表1から表6のとおりである。

表1 むし歯予防教室の実施状況

年 度	9年	10年	11年	12年	13年
延対象数	390	378	367	358	340
延参加数	238	259	258	252	239
参 加 率	61.0%	68.5%	70.3%	70.4%	70.3%
フッ素塗布希望者数	229	246	250	244	234
フッ素塗布希望者率	96.2%	95.0%	96.9%	96.8%	97.9%

表2 むし歯予防教室不参加状況(実数)

年 度	11年	12年	13年
対 象 数	157	142	122
不参加数*	34	29	25
不参加率	21.7%	20.4%	20.5%

*対象者で、1年間全く参加しなかった者

表3 3歳児健診の結果 一人当たりのむし歯数〔dmf 歯数〕(本)

	61年	62年	63年	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年
妙義町	4.48	4.34	4.34	5.05	5.45	6.16	3.05	3.23	2.51	3.05	1.82	1.56	1.65	0.84	0.81	0.47
富岡甘楽	4.92	5.11	5.43	4.91	5.00	4.99	4.61	4.04	3.08	2.33	2.26	1.65	1.32	1.39	1.15	1.13
群馬県	3.56	3.50	3.63	3.59	3.57	3.31	3.00	3.02	2.85	2.66	2.41	2.22	2.10	2.00	1.79	1.80

表4 3歳児健診の結果 むし歯保有者率〔dmf 者率〕(%)

	61年	62年	63年	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年
妙義町	80.0	71.6	69.6	80.6	90.2	77.2	58.1	65.9	48.7	51.4	32.4	41.2	35.1	27.0	25.0	12.5
富岡甘楽	77.7	76.0	78.3	78.8	74.3	76.4	73.0	67.9	57.0	48.0	42.7	39.6	30.5	33.8	30.9	29.7
群馬県	64.4	62.4	63.7	63.8	62.8	60.6	58.8	57.0	55.1	50.3	48.7	46.1	44.6	40.7	38.5	37.7

表5 むし歯予防教室〔平成12年度、13年度〕の健診結果

	1歳～	1歳4月～	1歳8月～	2歳～	2歳4月～	2歳8月～	3歳～	3歳4月～	3歳8月～	4歳～	4歳4月～
参加者数	59	57	49	48	45	42	36	42	35	35	34
むし歯総数	0	1	13	9	6	2	6	8	10	32	44
dmf 歯数	0.00	0.02	0.27	0.19	0.13	0.05	0.17	0.19	0.29	0.91	1.29
dmf 者率	0.0%	1.8%	12.2%	8.3%	4.4%	2.4%	8.3%	9.5%	11.4%	25.7%	32.4%

表6 フッ素洗口実施状況

年 度	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年
園児数〔4,5歳児〕	114	107	88	96	101	97	93	91	85	84
フッ素洗口実施数	110	102	86	94	97	91	90	88	83	81
実施率(%)	96.5%	95.3%	97.7%	97.9%	96.0%	93.8%	96.8%	96.7%	97.6%	96.4%

4. 考察

妙義町では、平成4年度からむし歯予防教室にフッ素塗布(年3回)を導入し、指導の内容を見直し、科学的根拠に基づく情報の提供に努め、「家庭でのフッ化物利用」の普及啓発を図った。その結果、3歳児のむし歯罹患状況が大幅に改善した。平成13年度のdmf 者率は12.5%、dmf 歯数は0.47本で、「元気県ぐんま21」の目標を達成している(表3、表4)。むし歯罹患状況の改善は、口腔衛生指導による保護者の意識の変化、フッ素塗布による「歯質強化」、家庭でのフッ化物利用の普及による「エナメル質の再石灰化の促進」「歯垢中の酸産生能の抑制」などの相乗効果の結果だと考える。

むし歯予防教室は、平成4年度から平成8年度までは年間開催数が3回で、1回当たりの参加者が多く、指導に十分な時間をかけられない状況だった。また、待ち時間が長く、参加率低下の一因にもなっていた。そこで、平成9年度から教室の年間開催数を6回に増やし、1回あたりの参加者数を減らして待ち時間を短くし、参加しやすい環境を整備した。また、一人当たりの指導時間を十分に確保し、きめ細かい指導ができるように改善した。さらに、ハイリスクの児に対しては、2か月ごとのリコールができるようになり、いっそう充実した予防対策が可能になった。その結果、毎回の参加率が上がり、充実した指導内容により、保護者の意識が向上しただけでなく、レノビーゴの使用などの家庭でのフッ化物利用の普及が促進された。そのため、平成11年度以降、むし歯罹患状況が一段と改善したと考える(表1、表3、表4)。

むし歯予防教室への参加率は約70%だが、教室に全く参加していない児がおよそ20%いる(表1、表2)。教室に参加していない者の中にも、かかりつけ歯科医を持ち、定期的に予防処置を受けている児も含まれている。しかし、教室に参加していない児にむし歯が多い傾向がある(表3、表4、表5)。今後は、未受診者や参加回数が少ない児への対策が大きな課題である。

むし歯予防教室への参加者の95%以上がフッ素塗布を希望している(表1)。また、幼稚園・保育園の4,5歳児においても毎年95%以上がフッ素洗口を希望し実施している(表5)。むし歯予防のためのフッ化物利用については、大部分の保護者が理解し、積極的に協力していると言える。

「元気県ぐんま21」では、幼児期の評価指標と目標として、「3歳でむし歯のない人の割合80%以上」、「3歳までにフッ化物歯面塗布を受けた人の割合70%」、「間食として甘味食品・飲料を1日3回以上飲食する人の割合20%以下」の3項目を挙げている。また、学齢期の評価指標と目標値として、「12歳で一人平均むし歯数1歯以下」、「フッ化物配合歯磨剤の使用者90%以上」、「フッ素洗口をしている人の割合50%以上」、「過去1年に個別的歯口清掃指導を受けた人30%以上」の4項目を挙げている。妙義町では、幼児期の目標については既に達成しているが、学齢期の対策が遅れている。今後は、「元気県ぐんま21」の方針に沿って、学齢期の歯科保健対策を充実させて行く必要があると考える。